

1945年のフランス・カレンダー。  
連合軍がパリ市民に食糧を配っている絵を見ると、  
国旗の大きさ＝星条旗、ユニオンジャック、  
三色旗の順で、当時の勢力図がわかる  
(標本番号H225329)



日系ブラジル人向けのカレンダー。  
日本とブラジルの地図がならぶのは  
日伯友好のみではなく、ブラジルの  
大人が日本の、その子どもたちが  
ブラジルの地理を知るためである



標本資料目録データベース  
[www.minpaku.ac.jp/menu/database.html](http://www.minpaku.ac.jp/menu/database.html)

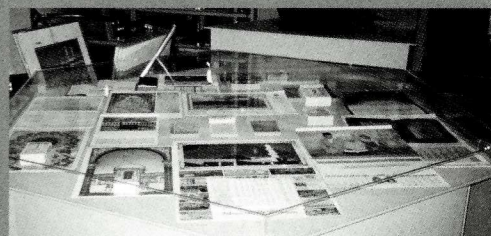
民博収蔵庫におさめられている  
カレンダーの一部



## カレンダーから世界を読み解く

中牧 弘允 (なかもき ひろちか)

本館民族文化研究部



1999年度の特別展  
「越境する民族文化」の  
カレンダー展示

### ゆたかな文化の表象

ここ一五年ほど、わたしはカレンダーの収集にはげんでいる。純粋な趣味というわけではなく、さりとて民博の業務命令というわけでもない。しかし、ある意味では趣味と実益を兼ねて、みずから楽しみながら民博資料としての充実をはかっている。

わたしにとってカレンダーの魅力は何かと問われれば、そこにさまざまな暦法が記載されているだけでなく、多様な文化が表象されているからだと答えることができる。生粋の太陰暦で断食月をまもるイスラーム暦。天地創造や神武天皇即位を聖書や記紀で計算して紀元をさだめているユダヤ暦や皇紀。春分の日を元日とする太陽暦のイラン暦。星宿に太陽がやどる期間をひと月とするインドやネパールの暦。グレゴリオ暦(西暦)が標準化しグローバル化するなかで、伝来の暦法もそれなりに存在感をもち続けている。新年を比較するだけでも、日本が西暦の正月を盛大に祝うめずらしい国であることがわかる。なぜなら中国や韓国では旧正月のほうが重要だし、欧米ではクリスマスの比重が正月よりもはるかに高い。イスラーム暦の正月は約一日ずつ毎年繰り上がるし、ユダヤ暦やエチオピア暦の元日は九月か一〇月である。インドでは四月中旬に新年がめぐっている。暦法と行事に関する記述は民俗学や民族学の格好のテーマとなってきた。歴史学

よんだ。

考暦学の基礎は収集にある。集めなければ話にならない。わたしは民博のネットワークをフルに活用して収集にのりだした。同僚はもとより、客員教授、外来研究員、大学院生などに依頼し、世界各地のカレンダーの入手を心がけた。拍車がかかったのは特別展「越境する民族文化」(一九九九年九月～二〇〇〇年一月)である。その一部として、西暦二〇〇〇年のターニングポイントをはさんでカレンダーの展示を企画した。グレゴリオ暦のグローバル化と、それに対抗するかのようにならざるを得ないイスラーム暦を筆頭とする勢力との相克を、カレンダーで表現しようとしたのである。さらに、グレゴリオ暦に打ち勝てなかったフランス革命暦なども動員して、約六〇〇点の新旧カレンダーをこころ狭しとらべてみた。あわせて展示資料や各種の暦法が検索でき、暦変換プログラムも操作できるコンピュータの端末を配置したのである。

こうしたころみはその後も収集や研究に引き継がれた。そのひとつは筆者を代表者とする科学研究費補助金による「マルチカレンダー文化の研究—日本を中心に—」(二〇〇四年度～二〇〇五年度)である。ここでは国内のエスニック・マイノリティーが使用するカレンダーがひとつの柱となり、在日韓国人、在日中国人はもとより、在日フィリピン人や在日ブラジル人向けの興味深いカレンダーが多数収集された。また

にとつても暦法はイロハである。旧暦を知らずして日本史は語れない。俳句にも季節があるため暦の知識が欠かせない。日和見や日読み(よみ)の語源とされる、つまり日にちと吉凶の判断が暦にもとづいてなされることも行動指針として重視されてきた。しかし、カレンダーや日めくりには暦が印刷されているだけではない。美しい風景や美男・美女の写真、聖人像や指導者の肖像、聖句や格言、それに企業広告や行政広報、地図や電話番号など多種多様な情報がのつている。これもあわせて研究する価値があるのではないか。そこには宗教文化、国民文化、大衆文化、企業文化、観光文化、民族文化、民俗文化など数え上げたらきりがないほど、ゆたかな文化が表象されているのではないかならば、カレンダーや日めくりが付随している情報までも含めて研究することが大切ではないか。

### 「考暦学」といつ

そうした学問をわたしは「考暦学」と名付けてみた。暦学ではなく、暦を考える学である。考古学からの発想であるが、一九九三年二月の「みんぱくセミナー」ではじめて提唱し、以来、曲がりなりにも実践してきた。当時、民博の暦関連資料は約四〇〇点、国にして約一〇カ国にすぎなかった。それが二〇〇〇年の時点で約二二〇〇点にのぼり、国別ではおよそ七〇カ国にお

### 流れ去る時の救済

現在、民博収蔵のカレンダーはホームページ上で閲覧することができる。目下、さらに詳しいデータも準備中なので、ほどなく公開されることであろう。民博のカレンダーにアクセスすることによって世界各地の文化に親しむをもつてふれていただくことができれば、作成者としてはこれ以上のよろこびはない。カレンダーは他国の多様な文化や自国の意外な文化を知る窓口として、知的にたのしいのである。切手やコインにもそうした側面があるが、それはもっぱら国民文化の範囲にとどまる。国家がお墨付きをあたえた文化に限られるのである。それにくらべ、カレンダーや日めくりの類は先に列記したような重層的な文化の発信源となっている。中身の濃さと深さがちがうのである。しかも切手やコインのような市場がないから、交換価値は無きに等しい。無一文で使い捨てられ消えゆく運命にあるカレンダーの命をつなぎとめることは崇高な営為であるかもしれない。なぜなら、流れ去った時を救済することにつながるからである。しかも、雑多な情報と一緒に。